

# 式内八社の里 歴史散策マップ 社へようこそ

いまだ**謎**に包まれた、中世の神聖な歴史をめぐる



いまだ多くの謎に包まれている、真庭市社地域の「式内八社」  
その最大の**謎**は、なぜ社地域に、式内社が**八**つも集まっているのか

平安時代、醍醐天皇の命によって編纂された「延喜式」に記載され、  
朝廷から重視された神社だけが「式内社」と呼ばれていました。  
非常に格式が高く、いまでも貴重かつ神聖な場とされています。  
そんな式内社が、なぜここ社地域に八つも集まっているのか。

式内八社をめぐる旅のなかで、あなたの想像力が目を醒ます。

## ◆社地域の概要

社地域は、岡山県北の真庭市湯原地域にある、中山間地域です。名湯「湯原温泉」が近くにあり、山々に囲まれ、涼やかな水が湧き、四季折々の豊かな自然に抱かれています。日本の原風景を思わせる集落、社地域のなかには、いまだ謎の多い中世の歴史が残る神社やお堂、石造物や城跡などの遺産がいくつも点在しています。

なかでも、社地域にある佐波良神社・形部神社(合祀)、長田神社、兎上神社、粟栗神社・大笹神社(合祀)、久刀神社、横見神社の8つの神社は「式内社」(通称：中世式内八社)であり、中世からの遺産は、地域住民の生活に溶け込んでいます。

豊富な水源が確保でき、災害が少なく、日照条件、土壌ともに優れている社地域は、古代より農作物に恵まれ、経済的な基盤が整っていました。当時の都、京都にある仁和寺の領地だったことに

加えて、人やモノの往来も盛んだったため、社地域は美作のなかでも重要な位置にあったと考えられます。

さらに、神道の「式内八社」と共存している仏教の「大御堂」など、日本独特の文化である神仏習合の名残にも触れることができます。「式内八社」があり、豊富な農作物に恵まれた社地域は、神聖な地として数多くの神秘的な祭礼が行われてきました。現在でも、神輿の出る本祭、大きな数珠をまわす百万遍など、中世の文化を色濃く残す祭礼が行われています。

朝廷と深い関わりがあったため、社地域は、混迷を極めた源平の内乱や、戦国時代には武士たちの対立にも巻き込まれ、激動の歴史に翻弄されてきました。戦国時代に築造されたといわれる「田井城」も激戦の渦中にありました。

それほどの苦難を受けながらも中世の遺産、文化が多く残り、また今でも神聖な地として地域の方々が守りつづけている社地域は、日本でも他に類を見ない場所です。

## 社のイベント

### ・7月中旬 百万遍数珠回し

百万遍とは、平安時代から「過去追善」や「現在祈禱」を目的として行われていた行事です。社地域では「五穀豊穡」や「虫除け」の意味が強く、現在も7月中旬に行われています。

### ・毎年10月9日 式内社の大祭(社祭り)

八社祭礼は、4月5日の春祭、10月9日の大祭、11月30日の霜月祭の3度の例祭として現在も引き継がれています。春祭と霜月祭は神主と総代ら10人ほどで拝礼しますが、大祭は地域をあげて行われます。八社の神が一堂に会する祭礼のあり方は、中世をしのばせるものとして大変貴重なものと評価されています。

### ・大晦日 やしろ竹あかり

社地域にある放置された竹林をどうにか活用できないかと話し合ってきた取り組みで、高齢者から子供まで参加して作った竹灯籠は社地内を幻想的に灯します。

## 社地域へのアクセス



【お問合せ】 社地域振興協議会  
電 話：090-1686-0292 (代表：樋口)  
MAIL：yashiro-hassya@amail.plala.or.jp  
U R L：http://i-maniwa.com/area/yashiro/

### 社の中世式内八社ボランティアガイド案内(要予約)

中世式内八社を中心とした社地域の歴史をわかりやすく語る  
地元のガイドです。左記までお気軽にお問い合わせください。

右QRコードの公式  
Facebookページにて  
社(やしろ)地域の情報  
を発信しています!





# 社 歴史散策MAP

～いまだ謎に包まれた、中世の神聖な歴史をめぐる～



## 於々路の札 (おおろのたわ)

下湯原から津山に抜ける一番の近道で、湯原から都へ通じる道でした。

## 湯原温泉・下湯原温泉へ

### 公文郷(くもんきゅう)

仁和寺から現地に派遣された役人を「公文」と言い、この周辺はその人の給料となる田であったことがわかります。

※「郷」は「卿」の誤記のまま伝えられている。

### 正禰宜(しょうねぎ)

神主や、その手伝いをする人のことを「禰宜(ねぎ)や「権禰宜(ごんのねぎ)」と言い、この周辺は式内八社を総括する神主の収入になっていた場所と思われます。

## 江戸の名水

県道56号線(湯原奥津線)沿いにある水汲み場で、山肌から流れ出る清水をパイプで石の鉢に注いでいます。くせのない、すっきりした喉越しの水が湧いています。



## 二宮(ふたみや)

[長田・菟上・菟栗・大笹(合祀)、久刀神社]

江戸時代までは佐波良・形部神社は「大社」と呼ばれており、これに対応した呼び方です。左から長田、菟上、菟栗・大笹(合祀)、久刀神社で、4つの神社で5つの神を祀っています。



## 佐波良・形部神社

明治時代に県内の神社がランク付けされた際に、もっとも高位な県社になった神社です。境内にはモミと杉の木が根元で結合している「縁結びの木」があります。



## 神馬神座跡(じんめこうざあと)

現在、本谷集会所になっているこの場所で、昔は神馬(じんめ)という神の使いである馬を飼っていました。

## 竹の花

## 八畳岩

広さ約 118 m<sup>2</sup>もある巨岩です。なぜ単独で残されているのか、現在もその理由ははっきりしません。鉄穴流しが行われた際に周辺の真砂が流れ、この巨岩のみが残ったという説もあります。



## 鏡野町へ

## 宇和佐

## 横見神社

本殿の背後にまっすぐ櫃ヶ山(ひつがせん)を拝むことができることから、櫃ヶ山を信仰の対象としていたと考えられています。



## 田井城跡

戦国時代の山城の跡で、その構造を見ると、下側(社口方面)から県社方面を守るようになっています。



## 佐波良の大杉

佐波良・形部神社の境内にある大杉です。県下でも屈指の巨樹として知られており、目通り周囲が約8.8m、樹高が約43mあります。樹齢は推定約900年で、地元では「千年杉」と呼ばれています。



## 社ガイドスポット

### 1 大御堂(おおみどう)

建築されたのは、寿永4年(1185)(源平合戦が終わったぐらい)とも言われており、「神宮寺」と呼ばれたこともありました。神集場の近くにあり、江戸時代までは、神と仏と一緒に祀ること(いわゆる「神仏習合」)が行われていたようです。お坊さんが座る場所が一段高くなった、他のお堂にはあまり例がない造りをしています。現在では珍しい、数珠回しなどの伝統行事を今も行っています。



### 2 神集場(かんなつば)

祭りの時、式内八社の各神が一堂に集まり、一体となる場所で、一般的にいうところの御旅所(おたびしょ)と同様な場所です。普段何も無い時には閑静な場所ですが、祭りともなると一転してにぎわいます。



### 3 宝篋印塔(ほうきょういんとう)

部分的に残っているものですが、南北朝時代の物と考えられ、真庭市の中でも最古級のもので、整った造形から、有力者のものであるとされています。



### 4 福圓寺(ふくえんじ)

真言宗御室派の寺院であり、京都の仁和寺(にんなじ)が本山です。中世(西暦1000～1600年頃)には、仁和寺の現地管理のための場所でした。社の中でも一番見晴らしがよい場所に建てられており、年貢を集めて、検査して京都に運送する出発点になっていたと考えられています。



### 5 畝(うね)の中世集落跡

この地域は、昔は農民だけでなく領主の田んぼも存在していた、生産力の高い場所でした。この辺りには強い湧水があり、田の多くはほとんど湿田であり、そのおかげで安定した給水ができていました。



### 6 大草屋敷跡(おおくさやしきあと)

「竹の花」という地区には美甘氏という戦国武将がおり、その拠点である居館があった場所です。「大草(=大麻)」とは、いわゆる大きな御幣のことで、それを管理した美甘氏は宗教的にも大きな影響があったようです。大草屋敷跡(現在は田んぼ)の後ろには、阿弥陀堂(通称:毘沙門さん)があり、室町から戦国時代の石塔も集中してあります。

メタセコイア並木

桜並木

牧原

県道326号へ

農免道路

式内八社と山

五市山

霰ヶ山

二宮

(長田・菟上・菟栗・大笹、久刀神社)

佐波良・形部神社

横見神社

櫃ヶ山

佐波良・形部神社、二宮、横見神社はそれぞれ背後に霰ヶ山、吾市山、櫃ヶ山を望むことができ、山を強く意識した配置であると言えます。式内社と呼ばれる以前から信仰の場所として確立していたと考えられます。社の謎に挑むには、このように、地形という古来より変わることのないものに着目するのも、ひとつの手段となるかもしれません。